

未来の社会を支える 科学技術に期待する

明けましておめでとうございます。技術士の皆様にとりまして昨年の2012年という年はどんな年だったのでしょうか。今年が皆さんにとりまして良い年でありますようご祈念申し上げます。

さて、昨年の大きな出来事としては7月の九州のゲリラ豪雨、7月から8月にかけてのロンドンオリンピックにおける活躍、山中伸弥教授のノーベル生理学・医学賞受賞、11月のオバマ大統領再選、中国周近平国家主席の就任、12月の我が国の衆議院選挙など、話題の多い1年でした。さらに5月にオープンした東京スカイツリーの開業も大きな技術の集積の結果でありましょう。また我が国は人口減少下にありますが、世界的には総人口が70億人を突破したことも大きなニュースといえましょう。

そんな中で2013年は1868年の明治維新から数えて145年目となり、もうすぐ150年目を迎えることとなります。また明治2年に開始された北海道の開発も同じくらいの年数が経過することとなりました。昨年の選挙で「維新八策」が話題となりましたが、最近私には日本の明治維新以後の歴史が懐かしく思い出されてなりません。「坂の上の雲」の影響があるかもしれません。また戊辰戦争を戦った後、北海道伊達市に移住した私の先祖のことが関係しているかもしれません。

ここで技術士の皆様には慶応義塾を創設した福沢諭吉の「文明論之概略」(岩波文庫)の一読をおすすめしたいと思います。そこには学術でその後の日本の立国を目指した福沢諭吉の考えが述べられており、感慨深いものがあります。

さて、現在、技術士としての私共を取り巻く状況を考えてみますと身近に多くの課題があることにあらためて驚きます。2011年3月11日午後発生

大 島 俊 之 (おおしま としゆき)

技術士(建設/総合技術監理部門)

公益社団法人

日本技術士会北海道本部 副本部長

オホーツク技術士会 代表幹事



した東日本大震災では2万人という未曾有の人命喪失をはじめ、多くのインフラ、集落が壊滅的被害を受けました。ご承知の通り今後20年、30年とかかりそうな復興の足がかりが現在やっとできるかどうかという状況です。加えて12月に発生した中央自動車道笹子トンネル事故の関係で報道されたNHKの報道では国土交通省の推計で2010年から2050年までの40年間でインフラの維持管理費が570兆円必要と報道されました。

また、福島県東電の原発の事故やその後の事故対応、および今後のエネルギー問題に関連して、電力の安定的供給や原子力発電所の安全性、原子炉の使用済み廃棄物の処理に関しても技術士としての判断や取り組みが社会から一層求められている状況となりました。さらに北海道に関係の深いTPP問題に関連しても合意形成が難しい状況の中で、技術的な判断や環境風土の維持保全、農水産業を含めた産業の安定的継続など、技術士が貢献すべき項目も多いことに気づきます。

北海道の将来にとって大きな朗報となったのは北海道新幹線の札幌延伸が決定したことではないでしょうか。完成までには大きな公共投資が必要となるでしょうが、それ以上に新幹線を活用する様々な取り組みが今後検討されることになるでしょう。北海道が我が国の社会経済に対して新たな貢献ができることにもなるでしょう。若い技術士の方々のご活躍に期待しています。技術士として公共性・公益性を重視し、社会に役立つ技術を活用・発展させるとともに、後の世代に夢と希望の多い北海道の未来を残せるようにしたいものです。今年の皆さんのご健闘・ご活躍をご祈念申し上げます。